

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養 東棟		
所在地	福岡市西区生の松原3丁目13-15		
自己評価作成日	平成30年12月27日	評価結果確定日	平成31年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=4071200630-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成31年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者目線で声掛けを行い、安心感を持って頂いた後関りなどの行動に移すことを基本としています。全介助の方・自立の方皆さまが、外出やレクリエーションで楽しむことや体操・口腔体操なども個別にまた手動で実施し身体機能を維持出来るように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を基に全職員が本人の支援を行っている。常に本人の状態状況を把握し、ケアの本質である目配り気配り心配りに努めている。地域との交流や関係を強めて、地域での行事や清掃活動など積極的に関わりを持つ様になっている。運営推進会議開催時には、ご家族様や地域の役員、民生委員、行政担当者、包括支援センターの皆様が参加しやすいような工夫を行い、平日だけでなく土曜日にも開催している。会議の内容においては、全てを開示し参加者からの意見や要望なども取り入れ事業所の運営に反映している。外出などにも本人や家族からの申し出がある場合には、出来る限り応えるように工夫している。管理者が職員の立場に立った目線で接し職員が働きやすいような工夫を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部署に掲示いつでも確認出来る様になっている。理念に沿ったケアを行っている。	朝礼等で理念を復唱して日々の本人支援にあたっている。本人の状態状況を把握し職員間で共有し関わりを持つ取り組みを行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃やカフェなど交流の場へ積極的に参加し繋がりを持つようにしている。行事への参加も増やしている。	地域との関わりを持ち、地域との助けを借りながら携わっている。地域への行事や清掃等にも職員と共に本人も参加し、地域との交流を図っている。事業所の行事(カフェや介護予防勉強会)への案内状を地域の皆様へ送っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や見学・交流の場面に於いて実施。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在土曜日と平日のふたパターンで開催。活動や事故他の報告を行っており、頂戴した意見については速やかな対応を心掛けています。	運営推進会議での参加者が出席しやすいように開催曜日を平日と土曜日に交互で出来るように工夫している。地域役員・民生委員や地域包括・行政担当者等にも出席を促し、出席されなかった家族へは、文書でお知らせしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各部会や協議会会議時に話をする機会があります。	事業所で発生して内容については全て報告をしている。保護課の職員が定期的に訪問している。介護保険内容などで不明な点があれば確認を行っている。外部からの依頼より介護予防等についての勉強会も開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内部研修や外部への研修に参加させ理解の場を設けている。委員会だけでなくグループ独自でも活動を行っている。	身体拘束については実施していない。対象者もない。外部研修等に職員を参加させている。外部研修内容を勉強会への資料として全職員へ周知している。職員のスキルアップ向上へと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修などで学ぶ機会を設けている。定期的にラインケアを行い職員の変化に気付くことが出来る様にしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や法人研修で知識を身に付け要望があれば支援している。	権利擁護制度や自立支援事業などを利用される対象者はいない。外部研修や内部研修を通じて周知している。身寄りのない方へは入居前に確認をし対応の工夫を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得いくまで説明をしている。特に重要事項説明書をしっかり説明し疑問点はすぐにお答えしている。改定については文書や同意書などでご案内		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からヒヤリングをしたり来苑時や連絡などで意見や要望を聴き運営に反映出来ることや検討課題であることなどお伝えすることを心掛けている。	家族からの意見や要望については、来苑時等に担当職員等から確認を行っている。ご家族からの意見や要望は本人個人受診ノートに記録し、質疑応答など記載している。出来る限り意見や要望などに応えられるように工夫している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から聴いており早い対応心掛けている。定期的に面談や書面で受け取る場も設けている。	月1回の職員会議を行っている。会議前には職員から議題内容を事前に提出するようにしている。意見や要望については事業計画に載せ反映できるように工夫している。業務で参加できなかった職員には議事録を確認する様に促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週礼や運営会議などで報告を行っている。事業所計画に沿った運営や環境が整うよう要望合う活動支援を頂いている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	皆公平に行っている。能力に応じた役割を持って頂いたりモチベーションを上げたり、働きやすい環境作りを行っている。	事業所では、男女平等を目的としている。個々の能力を活かすように対策を立て工夫している。ストレスケアを定期的実施して、年2回の面談にて職員の思いや意見などを聞いている。有給休暇の取得についても取り入れ順にて職員間で納得ができるように工夫している。雇用の男女は、男性2人、女性12人で、20代から50代での職員構成で従事している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	日頃より尊厳や自尊心についてなどについて会議の場に於いて何かある毎に説明しながら学ぶ機会を設けている	法人の内部研修や外部研修等で取り組んでいる。支援において本人の羞恥心を忘れないように厳しく取り組んでいる。本人の接遇に対してもカリキュラムを用いて職員へ周知している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ティーチングの頻度を増やしケアを見出す力を養うようにしている。SDSの頻度を増やし学べる環境作りに努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部講習や勉強会・研修に参加時における他施設担当とのネットワーク作りを指示。他施設が開催の研修にも参加しており、地区部会などにも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談やヒヤリングを行い本人様から要望を聴き安心して生活が出来る様にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階から状況や困っていることに耳を傾けアドバイスなど行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神的な状況把握し職員間で情報共有、必要なケアを行うようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業を一緒にしたり、互いに尋ね・教えるの関係作りしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や好みの把握し本人様に添ったケアを行い問題があれば一緒に解決している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方や羅家の少ない方へは手紙や電話で状況を報告や来援を促している。また外出時に馴染みのある場所を通ったりしている。	遠方や来苑頻度の低い家族へは、本人に手紙の依頼や担当職員が手紙を書いて促している。定期的に地域の方が面会に来られ本人への話し相手などに来苑されている。面会の申し出があればその都度対応工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いにコミュニケーションが取れるよう職員が間に入ったり席の移動を行ったり皆と関われる支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後必要なことなど要望に応じ適切なアドバイスをを行う様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活する上でやりたいこと・楽しみを聴き本人様希望に添うケアを実施。	自分で「何をしたいか」尋ねている。例えば「仕事をして暮らしたい」「自由に暮らしたい」など聞き取り、出来ない場合は家族の声を優先し生活リハビリとして取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	得意なことや好みを大切に、入居後も出来るよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やフェースシートを元にその方の現状や変化の把握を行っている。必要な情報は更新している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	想いや周辺症状・家族や本人様の要望を踏まえミーティングで必要なケアの検討を行っている。3か月ごとにモニタリングを行い内容の見直しに努めている。	居室担当職員が家族の訪問時に要望等を聞き取り話し合いが行われケアに反映できる様にプラン作成が行われている。事業所独自のモニタリングを作成し3か月、6ヶ月の1回、見直し、更新を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	籠記録や伝達ノートを活用し日々の状況吐くに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	迅速に対応している。難しいものについては会議などにて検討出来るだけ実現出来るよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各分野の担当と連携し必要な地域資源を確保提供し健康的に生活出来る支援をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が望まれる又必要な科目のある医療機関を受診頂いている。手紙やノートを活用し先生に状況を伝え・返事を頂けるようにしている。	入所時に本人、家族の意向を確認し西福岡病院に変更できる方は往診に切り替えている。かかりつけ医を希望される方は施設で送迎等対応し家族の同行をお願いしている。家族が対応できない時には必ず受診結果を伝え記録に残している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度の訪看事前に心身の状況などノートに記入し相談をしている。24時間電話による相談が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会を行い情報収集に努め早期退院出来るよう支援している。病院とは年数回会議を行い情報共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、どう対応して行くか定期的に話をしたり書面で交わしたりしている。	契約の段階で重度化や終末期について説明し「急変したらこの病院に搬送するか」「延命治療で救急搬送はしない」など聞き取り同意書を交わしている。2年前に医師との連携により看取りを行ったことがある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に入居者ごとの対応につき説明をおこなっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。ミーティングにて避難の仕方・方法の説明。協力体制作りに交流をより密増やしている。	ケアハウスと合同で災害訓練は行われている。水、ビスコ(缶入り)を用意している。施設は地域の避難場所となっていることから町内の会合に参加し合同で災害訓練に取り組んでいる。	施設での火災訓練は行われているが火災だけではなく地震災害等にも備え訓練し地域との連携でより一層強力体制ができる事を期待したい。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を推進し重点目標を掲げたり、委員を中心に勉強会を実施している。	居室やトイレのドアを開けっぱなしにはしない、良い声掛け、悪い声掛けなど接遇マナー研修に取り組み、職員同士で注意を促し日々ケアを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択出来るような声掛けを行い無理強いはない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床からその方のペースで自由にして頂いている。意思疎通が困難な方へも表情や様子を見てレクや休息の場の提供をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	タオル櫛を手渡しし自ら綺麗にすることの声掛けや援助をしている。化粧については職員が不定期で実施		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の取り分けや盛り付けから洗物も職員と一緒にやっている。食事は厨房で作られる為、2カ月に1回食事やおやつ作りをしています。	食事は委託で行われ、届いた食事のとりわけ、配膳など職員と一緒に行われている。行事食も年に6回行われ、2ヶ月に1回おやつ作りにも取り組んでいる。和、洋、アレルギー、嗜好調査が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回に飲む量が少ない方へこまめに提供したり水分摂取表を作成把握している。食事についても形態を変えたり・トロミなど使用して工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口をすすぐ・歯ブラシを噛むなどの問題点を考えケアを行っている。必要性を十分に理解している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの見直しや布の下着への変更などを行い使用頻度軽減に努めている。基本的にはトイレに座ることを支援している	夜間帯のパット使用の工夫がなされ尿量に応じて夜用、昼用を利用している。トイレ誘導を行い排泄後は必ず温タオルで清拭が行われ清潔を保つ様心がけている。紙パンツから布の下着に変更できる様に努力している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動を基本の考えとして排泄に取り組んでいる。自身で体を動かさない方へは個別に体操を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活歴を考え好きな時間に入って頂くことは考え実施したりしていますが身体機能に問題が無い方のみ。2～3日に一回の入浴ですが希望や汚染時はこの限りではない	バラ湯、菖蒲湯、ゆず湯等を取入れ季節感が味わえるように工夫している。介助が必要でない方は、夜に入浴ができる様にしている。入浴ができない方は足浴を心がけている。入浴中は、会話を大事にして楽しく、気持ちよく入浴ができる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度の休息の声掛けお誘いを行っている。 夜間眠れない時はリビングで過ごして頂くなどしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに薬情で確認出来るようしており、変更があればあらかじめ副作用を確認している。 変更薬はノートや日報に記載し確認出来る。必用に応じ服薬介助やゼリー・スプーンを使う。服薬手順についても掲示している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お楽しみや能力を発揮出来る機会を設けている。散歩へ言った際などは寄り道し甘いものを食べて帰るなどの実施。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買物や散歩は日常的に実施。ドライブや食事外出・季節の外出は定期的に計画にて実施している。	年間を通して外出の行事計画はある。また個別にケーキやぜんざいを食べに行ったり、車椅子の方でも社会参加を目的に地下鉄を利用し買い物を実施している。外出ができる工夫が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては立替金にて施設管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。適宜声掛けを行い手紙に関しては必要な方のみ支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁に飾りを行い季節感を出している。温湿度は定期的管理を行い快適温度設定。各場所へは分かりやすく表示。	施設の壁には正月飾りで年の初めを感じさせられる。飾り付けは定期的に行われている。中庭が食堂から見え解放感を感じる。西、東と別れているが、仕切りの戸を開けると広いフロアになり大きな行事には利用できる様に工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを分け気の合う方々で構成していますが、トラブルや気分転換の為席の移動を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や想いで(入れ)の有るもの搬入をお願いしている本人様が自宅と同様に過ごせるようにしている。	ベッドクローゼットは備え付けである。使い慣れたテーブル、ソファなどを置いていたり、笑顔が素敵な写真、大切にしている物などを飾り自分らしい部屋作りで居心地よく過ごせるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや案内の表示・カレンダーなど必要な物の掲示して確認出来るようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養 西棟		
所在地	福岡市西区生の松原3丁目13-15		
自己評価作成日	平成30年12月26日	評価結果確定日	平成31年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=4071200630-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成31年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者目線で声掛けを行い、安心感を持って頂いた後関りなどの行動に移すことを基本としています。全介助の方・自立の方皆さまが、外出やレクリエーションで楽しむことや体操・口腔体操なども個別にまた手動で実施し身体機能を維持出来るように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部署に掲示いつでも確認出来る様になっている。理念に沿ったケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃やカフェなど交流の場へ積極的に参加し繋がりを持つようにしている。行事への参加も増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や見学・交流の場面に於いて実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在土曜日と平日のふたパターンで開催。活動や事故他の報告を行っており、頂戴した意見については速やかな対応を心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各部会や協議会会議時に話をする機会があり。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内部研修や外部への研修に参加させ理解の場を設けている。委員会だけでなくグループ独自でも活動を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修などで学ぶ機会を設けている。定期的にラインケアを行い職員の変化に気付くことが出来る様になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や法人研修で知識を身に付け要望があれば支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得いくまで説明をしている。特に重要事項説明書をしっかり説明し疑問点はすぐにお答えしている。改定については文書や同意書などでご案内		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からヒヤリングをしたり来苑時や連絡などで意見や要望を聴き運営に反映出来ることや検討課題であることなどお伝えすることを心掛けている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から聴いており早い対応心掛けている。定期的に面談や書面で受け取る場も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週礼や運営会議などで報告を行っている。事業所計画に沿った運営や環境が整うよう要望合う活動支援を頂いている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	皆公平に行っている。能力に応じた役割を持って頂いたりしてモチベーションを上げたり、働きやすい環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	日頃より尊厳や自尊心についてなどについて会議の場に於いて何かある毎に説明しながら学ぶ機会を設けている		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ティーチングの頻度を増やしケアを見出す力を養うようにしている。SDSの頻度を増やし学べる環境作りに努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部講習や勉強会・研修に参加時における他施設担当とのネットワーク作りを指示。他施設が開催の研修にも参加しており、地区部会などにも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にて本人様の話をしっかり傾聴し不安や困りごとを取り除くように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族参加型の交流会を設けたり日頃から近況報告を細目にし家族の思いに耳を傾けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒヤリングで適切なアドバイスを行いながら他のサービスの話など提案できることをおこなっている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業や探し物など困っている時も一緒に行うようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活が安心して送れるよう連絡を密にしており些細なことでも相談にのっている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話など必要に応じ来苑を促すようにし、外出した時は住んでおられた所を通ったりしている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの方同士で席を設定しているが気分転換や交流を考え移動など行い皆とのコミュニケーションを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば必要なサービスなどのアドバイスをを行い支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活に対する希望など聴き対応援助を行っている、困難な方へはミーティングなど職員全員で検討提供している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートなどを利用し環境や趣味などを把握し出来る限りその方に合った(準じた)暮らし方が出来るようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課を持ってもらいながら無理強いせず自由に過ごしてもらっているが、表情を見ながら必要に応じた対応をしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人様の要望を聴き基本的な物の作成、ミーティングで内容の検討を行いながらケアの実施。三ヶ月ごとのモニタリングで見直し再検討を行いより適したプランを計画		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表を元にミーティングに於いて職員間で改廃に取組み計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアは生ものとの考えから、現況に捉われないことなく常に新しい物になるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	迅速に対応している。難しいものについては会議などにて検討出来るだけ実現出来るよう努力している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各分野の担当と連携し必要な地域資源を確保提供し健康的に生活出来る支援をしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人・ご家族が望まれる又必要な科目のある医療機関を受診頂いている。手紙やノートを活用し先生に状況を伝え・返事を頂けるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週間に1度の訪看事前に心身の状況などノートに記入し相談をしている。24時間電話による相談が出来る様にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に面会を行い情報収集に努め早期退院出来るよう支援している。病院とは年数回会議を行い情報共有している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	終末期、どう対応して行くか定期的に話をしたり書面で交わしたりしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者ごとの対応につき説明をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不安や負担にならない声掛けを行い無理強いはしないようにしている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出やレク・家事作業など本人様が選択出来るようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者対応を優先と考えその方のペースに合わせた支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事など場面に合わせた服装が出来る様支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り行事や日頃の取分け配膳を職員と会話を楽しみ食に繋げている		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事形態で摂ってもらい、食事・水分量を記録に残しバランスよく摂取出来るようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせたケアを行い異常が発見されれば訪問歯科と連携している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握しトイレでの排泄がスムーズに出来る様誘導している。失敗しても紙など考えず上手く自力で処理ができるよう援助している		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を設け水分管理や乳酸菌など摂取、必要に応じドクターに相談し排便コントロールしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に希望を確認し体調に合わせ無理なく入浴して頂いている		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠ある方は速やかに声かけ誘導している。夜間眠れない方へは睡眠剤など使用せず入眠できる支援をしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々に管理し変更時は記録に残し共有している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味趣向を考えその方が力を発揮できる場面を提供している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃から散歩など気分転換にお誘いしている。外出できない時は館内を散策。家族参加の行事や季節に合わせたドライブを実施		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設管理をしているが必要に応じて立替金で対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話したり希望があれば対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や季節の飾りを入居者様と作成し飾っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席を変えたり・外庭での椅子で気分転換している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染み・思い出のあるものを依頼し生活環境を整えている		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大まかな所には目印を掲げている。手すりやバリアフリーで単独でも安心して歩行が出来るようにしている		